

特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会

2018年度臨時総会 議事録

1. 日 時 2019年4月21日（日）10時00分から12時00分まで

2. 場 所 東京都障害者総合スポーツセンター 研修室1

3. 出席者数 正会員総数168名のうち、154名出席

(うち書面表決者79名、表決委任者65名)

4. 審議事項 第1号議案 事業計画の件

第2号議案 会計予算の件

5. 議事の経過の概要及び議決の結果

29

事務局から定款第二条の定めにより総会成立の要件を満たしている旨の報告があり、定款第二条に基づき、理事長の藤岡美鈴氏が議長の任につき、開会を宣言した。

議事録署名人について、早川倫夫氏及び三宅浩史氏を選任したい旨を諮ったところ、全員異議なく承認し、両名もこれを承諾した。



審議事項

1. 第1号議案 事業計画の件

本案について議長が詳細を説明し、続いて質疑応答が行われたのち、これを議場に諮ったところ、出席会員の議決権の過半数以上の賛成をもって承認可決された。

2. 第2号議案 会計予算の件

本案について議長が詳細を説明し、続いて質疑応答が行われたのち、これを議場に諮ったところ、出席会員の議決権の過半数以上の賛成をもって承認可決された。

議長は、以上をもって平成30年度臨時総会を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証明します。

平成31年4月21日



議長

藤岡 美鈴

印

議事録署名人

三宅 浩史

印

同

早川 倫夫

印

以上



特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会
2018年度臨時総会 議事録（質疑応答）

1. 事業計画の件

Q：強化合宿の計画とは、2019年7月世界選手権前までのことを指しているか（大会後は実施しないか）
A：19予算計画には、男女共に当該大会後も継続して合宿を予定している。ただし、本年度の助成金の金額が分かり次第では、強化会議において計画変更は有り得る。

男子はデフリンピックまで計画しているが、女子は世界選手権で一旦チームを解散し、その後に新しいチーム結成の相談に入る予定をしている。

2. 会計予算の件

Q：予算書にある、強化事業の方で予算を立てている「民間助成金」とは？

A：JSCより受け取っている助成金は国庫助成金。それだけでは資金不足のため、民間助成金を申請予定でいる。

Q：強化事業予算にある事業収益とはどこからか。

A：内訳は、応援グッズの売上、選手の参加費（自己負担分）、クラウドファンディングによるもの。

Q：強化スタッフの自己負担はどうなっているか

A：JSC助成金の金額をベースに、国際大会派遣の際にスタッフの旅費交通費の支給を優先的に行うため強化スタッフの自己負担は発生しない方針。

A：雑費の予算が0円になっているが、去年の決算では雑費は400万あった。この差は何か

Q：把握不足のため当協会強化委員会にて確認する。

Q：国際大会参加費の予算はいくらか

A：85USD×男子は15日、女子は14日×人数分となっている。

Q：参加費には旅費、宿泊費、食事が含まれているので、参加費として計上すべきでは

A：参加費の項目がない。参加費は旅費交通費として計上している。

Q：参加費とエントリー料の予算は別か？

A：いえ、一緒。JPC上は旅費扱いになる。自己負担が発生している場合は、雑費扱いになる

A：雑費という科目はあまり使わないほうがいい。中身の把握ができないから

Q：民間助成金について。本年度の予算分は民間助成金の申請は5月いっぱい終わる。国際大会派遣を目的とした助成金の申請はすでに終わっており、残るは業務スーパー申請のみ。業務スーパーもまだ通るか分からぬ状態。この状態で民間助成金の予算を計上すべきではないのでは？

実際にはもらえなかった分はどうなるか？もらえる保証がない分まで計上するのはよくないと思う。資金を集めの活動をしていないと言ったが、それなのにもらえますと掲示するのはおかしいのではないか。

A：本予算は2018年12月末時に作られたものため、実際とは大きく変わる部分も有り得る。都度、協会で相談し事業毎の予算の修正及び調整を行う。また、全くお金を集めていないというわけではない。去年秋に強化スタッフに資金集めの協力をお願いしている。

Q：強化事業予算にある事業収益の中に、応援グッズ売上とあるが、何の応援グッズか

A：2019世界選手権に向けての資金集めとして応援グッズの収益を予算に組み入れた。

Q：6月まで時間がない。間に合うのか？

A：私の力不足により対応できず、間に合わない状況である。

Q：強化事業に関する助成金申請について、去年10月に協会に伝えたと思うが、提案した助成金の申請を行わなかったり動かなかったのはなぜか。選手の自己負担が発生してしまう。今回申請した業務スーパーの助成金は、先般日曜日の合宿のあと水曜日に強化スタッフで行った。去年10月に申請していればユニフォーム代も作れたと思う。少なくとも、JPC助成金でもらえる金額分は、選手の個人負担から補填すべきである。

例として、500万使う予定がある。しかしあるお金が300万。助成金が60%として、残りの40%は資金として集める必要がある。スタッフの費用は、40%から精算支出すべき。

全部選手に負担させるのではなく、協会で資金を集める活動が必要。

助成金は、選手の強化費として使うべき。スタッフのための強化費ではない。優先順が高いのはスタッフではなく選手の方。みなさんは選手のため、この協会を立ち上げて活動している。みなさんが支援する相手は選手です。そこをまちがえないでいただきたい。選手が出している費用は、コーチ指導料や会場使用料など。選手が払っている状況。選手は個人で助成金を申請できない。選手に負担があるから、強化スタッフの負担などは発生していないでしょう？協会の負担がなく、選手の負担が増えるばかり。協会がお金を集めることをたくさん考える必要がある。

A：JPCを通して国より助成金をもらうには協会なしでは成り立たず、また、強化事業業務もスタッフなしでは成り立たない。業務を委託しているため、スタッフの業務負担を優先的に考慮して支給している。スタッフがいて代表活動ができるという考え方。

しかし例えは選手の派遣依頼書の発行にかかる費用などは、助成金ではなく協会費から支出している。

Q：事業活動計画に沿って、予算を決める必要がある。そして予算通りに動く責任がある。しかし確実に貰える見込みがないまま作っているのは、無責任だと感じている。「11月に強化スタッフに依頼した」と言いましたよね？強化スタッフから様々な助成金申請の提案をしたが、結局動かなかった。フォローがない。依頼して終わりか

A：協会には強化以外にも様々な問題があり、なかなか迅速には進められず対応が遅れた。

Q：早めに提案したはずが、なぜ動かなかったか

A：2019年度JSCの評価に影響するためその時期は、JPC助成金が少しでも増額されるよう規程作成の着手などガバナンスの整備を優先したため。

Q：2019年度JPC助成金について、申請した分よりさらに低い金額で確定される可能性はあるか

A：先日JPC加盟団体協議会が開かれ、仮ではあるが金額が発表された。去年より増える見込みとなっている。大会成績の他にも、ガバナンス状況なども評価される。会計の状況を資料にまとめ、理事会内でも規程を施行し、実行したことをチェックシートに入力し提出した。その結果と思われる。

Q：2019年度助成金の金額が上がったとのこと、選手の負担は減るということか

A：その予定。ただし、JPCから助成金が支給される時期次第では、それまでの間はお金がないため、当分は強化選手に立て替えをお願いすることも有り得る。

Q：2018年度のJPCへの事業報告はいつまでだったか？

A：2019年度3月31日まで。

Q：助成金をこれだけ使ったかという報告は終わっているか

A：これだけ使いましたという報告はJDBAからではなく、事業毎にJPC収支簿をJPCへ提出し、JPCの方で積み重ねていき、最終的に助成金対象となる金額はこの範囲まで、総額でいくら使ったという報告がJPCから来る。今年はまだ残りの事業報告がJSCによる審査中のため結果待ちの状態。

Q：事業終了から1ヶ月内に報告というのは遅延なくできていたか

A：得に昨年7月に開催されたU21大会派遣事業は大変時間を要し、なかなか期限に間に合わせることは出来なかつた。

Q：昨年度の事業報告提出は遅れたのに、今年の助成金は増額になるのか

A：JPCの評価対象は報告書提出状況のみではなく、組織運営状況も含まれる。

Q：強化事業は、年間予算の80%事業。先ほど他の様々な助成金の提案について以前、協会にお伝えしたけど動かなかった、手一杯だったとのこと。実際大変かもしれないが、結果として選手の自己負担が発生するという状況につながることになるのはおかしいと思う。それに関しての責任は重いと思う。さらに雑費も去年だけで400万。今年の予算には入っていない。雑費は発生するはず。選手としても俯瞰はしきれないと想像できる。それらをまとめて、協会の全体の責任が大きいと思う。

A：この予算通りのまま進めるわけではなく、様々な課題も出て来ると思うので、理事会で都度、内容を見直し協議しつつ事業を進めていきたいと考えている。実際に進めていく中で予算の一部に修正調整が起きることも有り得る。

Q：実際、雑費の計上がないためこの予算書は誤りでは？国際大会参加費の分だけ赤字になるのでは？

A：資料を確認した結果、大会参加費は入っていました。よく把握できておらず申し訳ありません。旅費交通費の科目に含まれている。

Q：2018年度の決算書では大会参加費は雑費。2019年度予算は旅費で予算を取っている。やり方が変わったということか？

A：会計処理上、領収証などで明らかに参加費、旅費とわかれば、それぞれの科目で計上する。大会参加費が発生するのは強化事業のみということもあり、雑費とした。

予算の方は、旅費のなかに参加費も含まれているが事業担当者が「予算：旅費」と、「実績：旅費+雑費」で、予実管理ができれば問題ない

Q：旅費交通費に入れるべきと言ったが、渡辺の回答は違った。結局、大会参加費は旅費に含まれているということで、予算の内容を把握していないとは如何なものか。

外部からお金を受取、それを使っていくことに対して、自覚が必要と思う。

また、予算の内容に関してこのような状況であることを、議決委任 79名は知らないことになる。このまま議長は承認されても良いと思うか

Q：日本代表の立場として言わせてほしい。強化事業に関する見通し、行動が足りないなどを含めて最終的には選手に自己負担という形につながると思う。我々はもちろん、自分たちで代表として活動していく気持ちはある。直前に自己負担がありますと言われても、練習をやめたくてもやめられない。自己負担があるのであれば、それまでにどうにかしてお金を集め、また、資金が足りないということについてもきちんと説明がほしい。

そこに関しては、理事会の中に日本代表として活動してきた元日本代表の方もいるのに、新体制に変わりはしたが、状況は変わっていないように思う。難しい部分もあるとは思うが、デフバスケの将来のためにも今後をきちんと考えてほしい。

A：足りない部分を補うため、新理事を迎えることで体制を再構築していきたいと思う。新しい理事が入ったことで期待に応えられるよう改善していきしたいと思う。

今回の予算についても理事会できちんと改めて話し合い見直していきたいと思う。

以上